

特定非営利活動法人 日本免疫学会
平成 28 年度後期 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	久保田 晋平	会員番号	34625
申請者の所属・職名	東京大学医学系研究科機能生物学専攻システムズ薬理学講座 博士課程 4 年		
出席会議名	KEYSTONE SYMPOSIA Inflammation-Driven Cancer: Mechanisms to Therapy (J7) joint with the meeting on Microbiome in Health and Disease (J8)		
発表論文タイトル	Whole-Organ Pathology of Cancer Metastasis with Single Cell Resolution		

実施結果:

この度は平成 28 年度後期 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award に採択していただき、誠にありがとうございます。岸本先生、選考委員の先生方、そして推薦していただいた高柳先生にこの場を借りお礼を申し上げます。

私は、アメリカ・コロラド州・キーストンにて開催された KEYSTONE SYMPOSIA Inflammation-Driven Cancer: Mechanisms to Therapy (J7) joint with the meeting on Microbiome in Health and Disease (J8) (2017 年 2 月 5 日-2 月 9 日)に参加させていただきました。Inflammation-Driven Cancer: Mechanisms to Therapy (J7)の参加者は約 150 名、Microbiome in Health and Disease (J8)の参加者は約 400 名と合計 500 名超の参加者が一同に会し活発な議論が行われました。癌と免疫系に関する様々な発表が行われましたが、その中でも特に“Inflammation and Immunity Crosstalk”のセッションは私にとって非常に興味深いものでありました。

本学会では“Whole-Organ Pathology of Cancer Metastasis with Single Cell Resolution”のタイトルでポスター発表を行いました。組織透明化手法およびライトシート顕微鏡を用いた三次元組織観察はここ 10 年で大きく発展してきており、神経科学が主な研究対象とされてきました。今回、我々は全身の様々な臓器を包括的に観察するための技術開発に取り組み、その技術を用いた癌転移巣の病理学的な解析について発表して参りました。

また学会終了後に UCSF の Dr. Wendell A. Lim の研究室を訪問し、“Whole-organ pathology of cancer metastasis with single cell resolution”のタイトルでセミナーを行い、その後 Dr. Wendell A. Lim らが開発した合成 notch 受容体そしてそれらを用いた遺伝子改変 T 細胞に関して議論してまいりました。

Keystone symposium そして Dr. Wendell A. Lim 研究室の訪問といった貴重な経験をさせていただいたことに重ねて御礼申し上げます。今回の経験を糧にし、今後も研究に取り組む所存です。